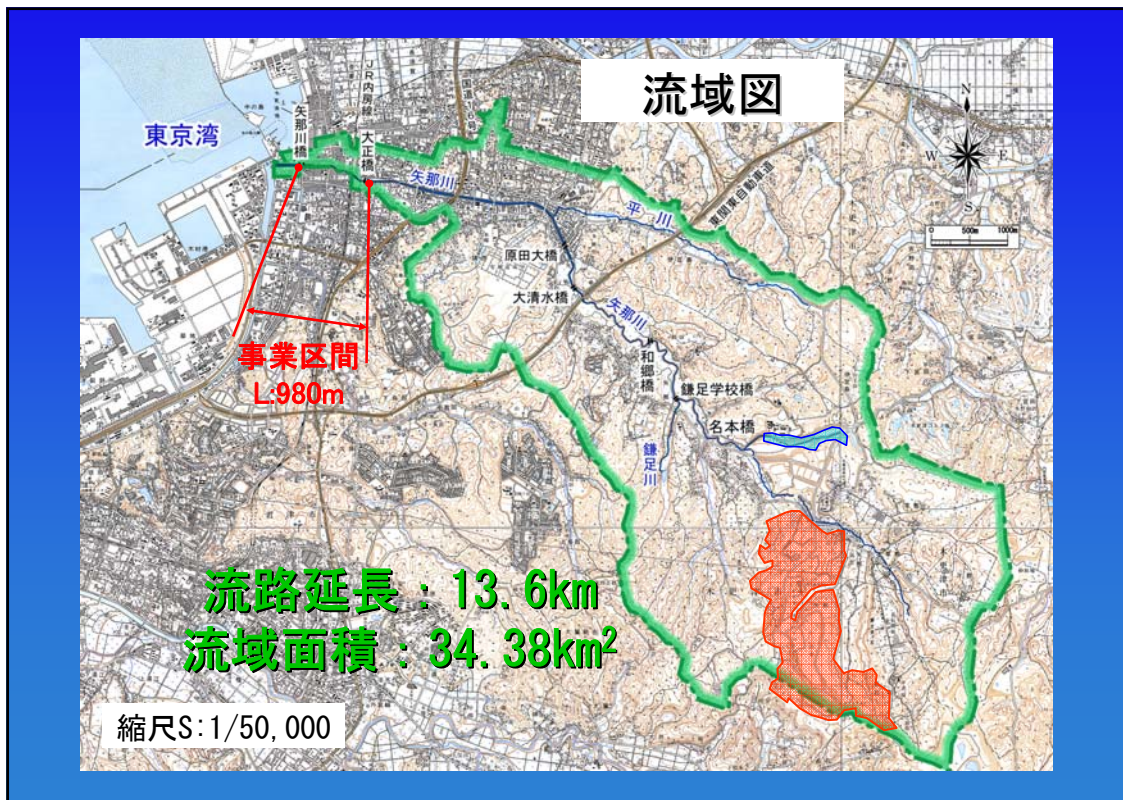


広域河川改修事業

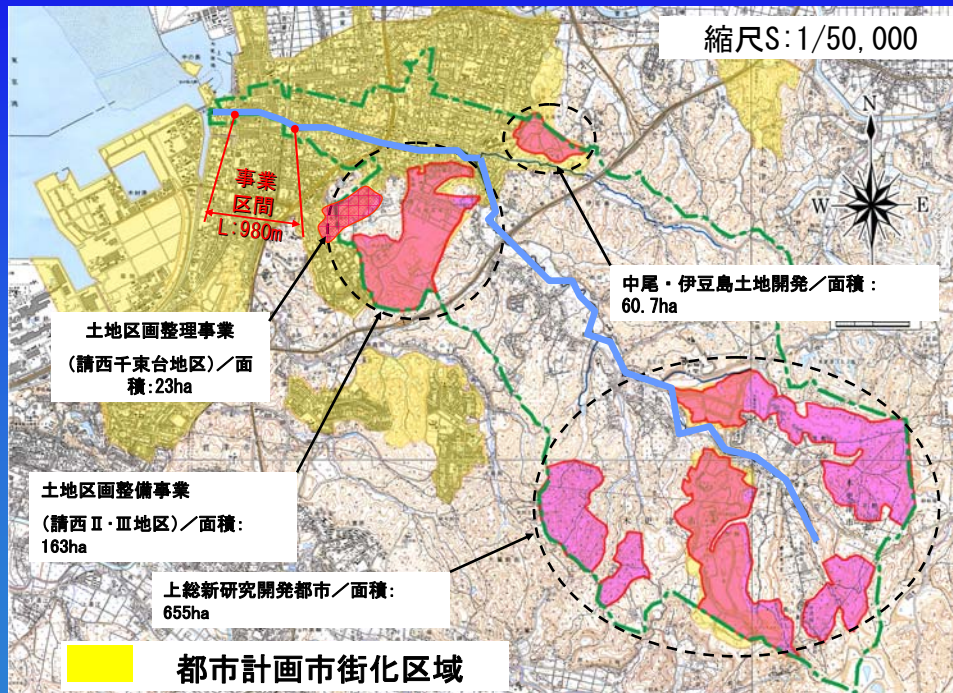
(二) 矢那川

改良区間980m(矢那川橋から大正橋)

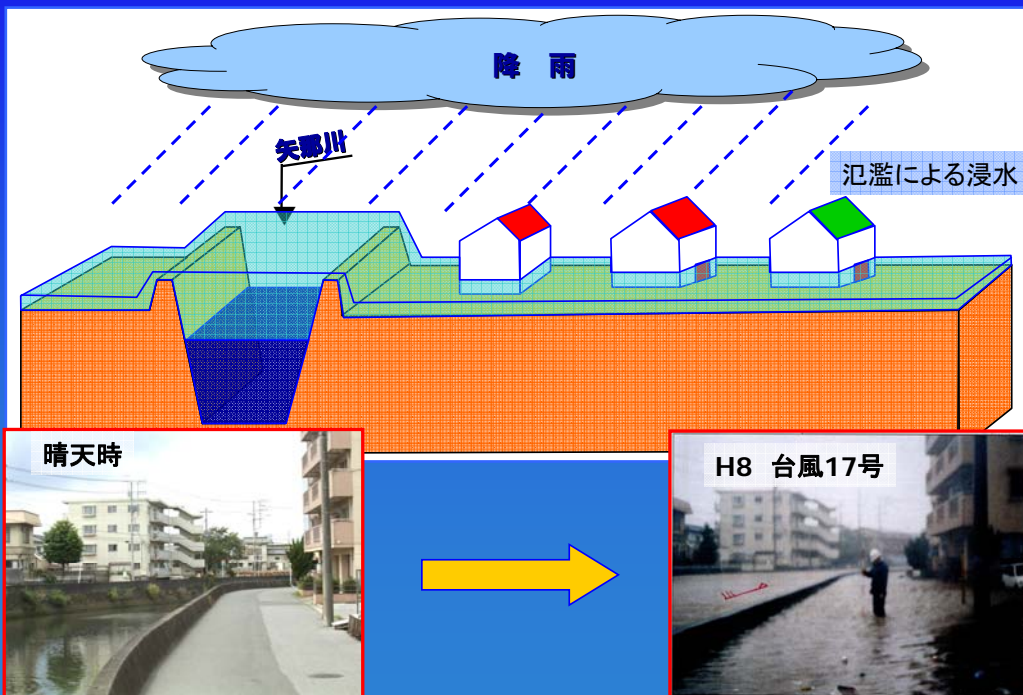
計画規模縮率1/10規模



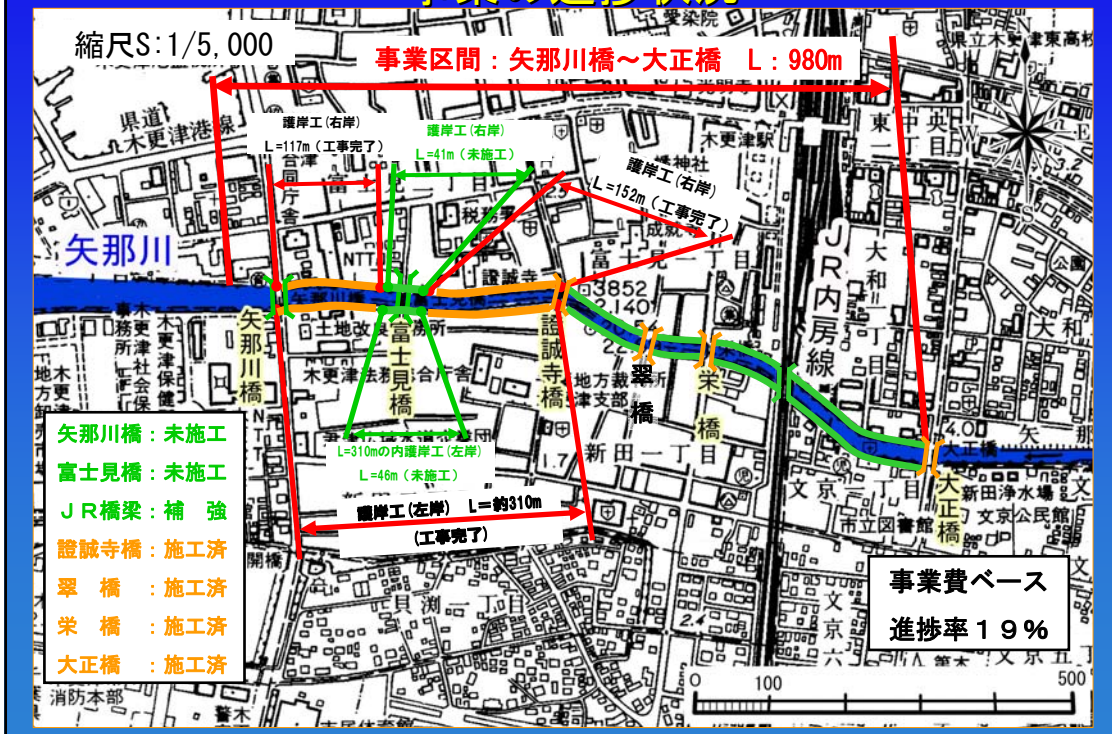
矢那川流域の状況



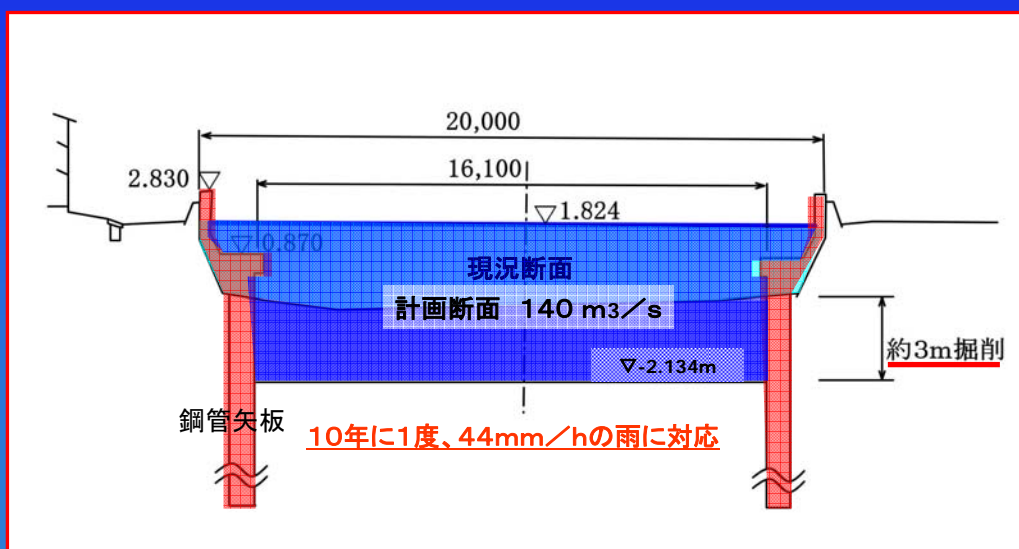
矢那川の浸水現象



事業の進捗状況



改修横断面図



想定氾濫区域 (10年に一度発生する降雨)



総便益 (B) の算定

浸水被害の解消 (確率1/10規模(時間雨量44mm)を含むこれ以下の洪水に対する浸水被害の解消。)

- ◆ 浸水面積 約69ha
 - ◆ 浸水内人口 約2200人
 - ◆ 浸水内世帯数 約910世帯
- 浸水被害が解消する。

総便益の算定

事業完了後、50年間にわたって治水効果を発揮するものとして、その期間の被害軽減額を算出。

⇒ 総便益は将来の経済効果を含めると、663億円となる。
これを※現在の価値に換算すると、200億円と算出される。

総便益 (B) 200億円

総費用（C）の算定

今後の建設費65.9億円
(現在の価値 50.8億円)

+

事業実施中及び事業完了後50年間にわたる
維持管理費 18.8億円
(現在の価値 5.7億円)



事業に要する総費用は現在の価値で 56.5億円
(=50.8億円+5.7億円)

総費用（C） 56.5億円

事業の投資効果（B/C）

事業の総便益(効果) **B=200億円**

事業に要する総費用 **C=56.5億円**



$$B/C = 3.5$$

総便益B
(Benefit)
200億円

効果あり

総費用C
(Cost)
56.5億円

$$B/C = 3.5 > 1.0$$

事業を実施する事により投資費用の概ね3倍の利益が見込める。

対応方針（案）

「継続」

【理由】

- ・矢那川は、木更津市の中心街を流れているため、洪水が発生した場合には、甚大な被害が予想されることから、今後も未改修区間の早期完成を目指し、地域住民が安心して暮らせるようにする必要があります。